

記者席

待ち研究会といつ組織があつて、歴史ある建物の保存に努力していることなどを知った。

○…東京から来た一人の観光客が育んだ「人と人の温かいつながり」。

昨年の十二月のこど。全国を旅している東京都世田谷区の女性が気仙沼市階上の岩井崎を訪ねた。たまたま通りかかった近くの人によく尋ねた。

「気仙沼のことをもっと知りたいんですけど…」

「今朝の新聞に国の登録文化財に指定された建物のことが載っていましたよ」。このアドバイスに心躍らせた女性はバスで魚町方面を目指した。

そして着いた先が、魚町一丁目一の「三の武山米店」。昭和五年に建てられたこと、本吉町小泉出身の大工さんから丁寧に仕事をしてもらい、現在はその家族が東京に住んでいること、気仙沼には風

性が、都内（渋谷）に住んでいる本吉出身の大工さんの家を訪ねたという。「武山米店」の建築に携わった棟梁のもとに養子に入った、当時のお弟子さんは九十一歳で、今も元氣だったという。

懐かしい話の数々が認められた手紙を受け取った同店では、大事に大事に保存している。

(三)